

1 取組名称

多摩地域を対象とした「観光科学 PBL」の実施
～調査から計画提案に至る一貫した演習プログラムの構築～

2 対象科目名

自然ツーリズム学プロジェクト演習
観光政策・情報プロジェクト演習
観光まちづくりプロジェクト演習 I

3 取組実施代表者名

都市環境学部観光科学科 准教授 岡村 祐

4 取組年度期間

平成 29 年度～平成 30 年度（2 年間）

5 取組の概要

都市環境学部自然・文化ツーリズムコースでは、これまで過去 5 年間にわたりアクティブラーニングの一つとして、コース内 3 領域（自然ツーリズム／観光政策・情報／文化ツーリズム）合同で、「観光科学 PBL」に取り組んできた。本事業では、大学近傍のエリアにおいて、ニュータウンと里山をつなぐ散策路の提案や都市公園の利活用等をテーマとし、「調査、分析・考察、計画提案までの一貫した演習プログラム」を新たに構築することとした。また、当該テーマに深く関わる専門家、実務家などをコメンテーターに加えた発表会を学内外で開催し、プレゼンテーション技術の向上も目指す。

くわえて、H30 年度組織再編以降の学生数の大幅増加（定員 15 名→30 名）に備えて、将来的な教材開発を念頭に入れており、授業内容や成果物を編集した「観光科学 PBL」報告書の制作・発行を行う。

6 事後評価の総合評定

3. 6 ※審査会（教育担当副学長及び部局長構成）の審査員が行った 5 段階評価（5～1）の平均点

7 事後評価に関する審査会での主な意見

- 留学生の参加や、三井アウトレットパーク多摩南大沢からの実践プロジェクト提案は評価できる。
- 受講学生が、本学のキャンパスがある南大沢の周辺地域について理解を深めながら観光科学 PBL を行ったこと、調査や発表会において南大沢地域の実際のステークホルダーからコメントや助言を得ながらプログラムを進めることができたことは、受講学生のモチベーションと学習効果を格段に高めることに繋がった。
- 参加学生へのアンケートによると、役割分担の明確さ、必要なスキルや知識の事前共有、地域への愛着の増加等に関する評価が必ずしも芳しくないようである。プログラムとしての成否を左右する点であるだけに、改善の努力が望まれる。